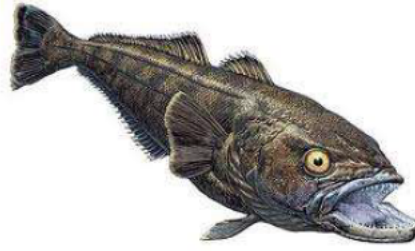


マジェランアイナメ 南東大西洋

Patagonian toothfish *Dissostichus eleginoides*

(図版：SEAFO Stock Status Report より)

管理・関係機関

南東大西洋漁業機関 (SEAFO)

生物学的特性

- 最大体長・体重：雌 252 cm (全長)・雌 157 kg (全重量)
- 寿命：不明 (南極海域では 40~50 歳程度)
- 性成熟年齢：不明 (南極海域では雄 6~10 歳、雌 10~13 歳で 50%が性成熟する)
- 産卵期・産卵場：不明
- 索餌期・索餌場：不明
- 食性：不明 (南極海域では成魚期に魚類、イカ類、甲殻類)
- 捕食者：不明 (南極海域では海産哺乳類)

利用・用途

本種は切身(冷凍や解凍)として販売されるほか、みそ漬けや麴漬け等の加工品の原料としても利用されている。

漁業の特徴

本種は、底はえ縄船で漁獲され 3 種の漁法 (Spanish longline system、Trotline、及び Autoline) で操業が行われている。SEAFO 条約域における操業域は D 海域で 3 か所漁場がある (West、Discovery 及び Meteor)。主漁場は Meteor であるが、年により West または Discovery が卓越する。SEAFO 設立 (2003 年) 以降 2023 年まで底はえ縄船 1~3 隻が継続して操業している。2024 年までに操業を行った国は、日本、韓国、スペイン、南アフリカ、及びナミビアである。

漁獲の動向

2003 年に最大漁獲量 393 トン、次いで多いのは 2011 年の 208 トンで、その他の年の漁獲量は 200 トン未満 (13~198 トン) で推移している (全期間の平均 118 トン)。2013 年以降は日本船のみが操業していたが、2020 年からスペイン船が、2024 年からナミビア船が操業している。日本は、2021 年は COVID-19 の影響により、2023 年は船舶の故障により操業を行っていない。

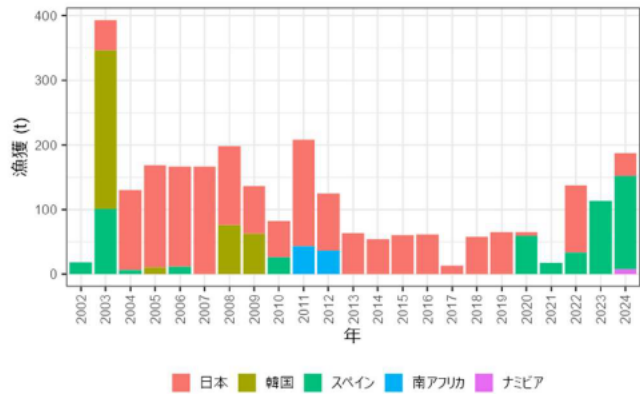
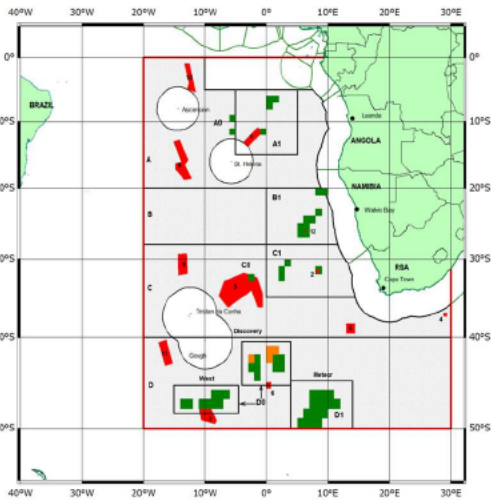
資源状態

現在までに資源評価が 2 回実施されたが、使用するデータの期間が短いこと及び標準化 CPUE の当てはまりが悪いという理由で合意が得られていない。しかし資源評価の結果は F が F_{MSY} よりかなり低いことを示唆しているため、科学委員会では過剰漁獲の発生は無いと考えられている。資源動向は HCR において最近 5 年間の CPUE が増加傾向にあるため増加と判断した。資源水準は、合意された資源評価の結果がないため不明。

管理方策

保全措置 (CM30-15) に、底魚漁業、禁漁海域、VME を含む深海生態保全、開発漁業等の措置・規則が定められている。TAC 設定に関し、第 12 回年次会合 (2015 年) において、科学委員会でも合意された資源評価結果が無い場合、HCR で TAC を決定することが合意されている。2025~2026 年の TAC は、HCR により D 海域 274 トンが 2024 年の第 21 回年次会合で採択された (CM-TAC-01-2024)。その他の管理方策には、CM04-06 (サメ類保全)、CM14-09 (海亀類保全)、CM25-12 (海鳥類保全) 等がある。

マジェランアイナメ (南東大西洋 SEAFO 条約海域) の資源の現況 (要約表)	
世界の漁獲量 (最近5年間)	16~187トン 最近(2024)年: 187トン 平均: 103トン(2020~2024年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0~104トン 最近(2024)年: 35トン 平均: 29トン (2020~2024年。2021、2023年は操業無し)
資源評価の方法	Y/R解析、体長コホート解析及びプロダクションモデル(ASPIC)
資源の状態 (資源評価結果)	過去に2回、Yield Per Recruit (Y/R)解析、体長コホート解析、プロダクションモデル(ASPIC)を用いた資源評価を行ったが、使用するデータの期間が短く、標準化CPUEのノミナルCPUEへの当てはまりも悪いという理由で結果は合意されていない。資源解析の結果や近年の漁獲量の推移から、漁獲死亡係数(F)が F_{MSY} より低いため過剰漁獲の発生は無いと考えられている。 資源水準: 不明 資源動向: 増加(HCRにおいてCPUEが正の傾きを示すため)
管理目標	HCRに基づくTAC(2025~2026年)(D海域: 274トン、その他の海域0トン)
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ● 底魚漁業、禁漁海域、VMEを含む深海生態保全、開発漁業等の規則 ● D海域における2025~2026年TAC: 274トン ● サメ類保全措置 ● 海亀類保全措置 ● 海鳥類保全措置
管理機関・関係機関	SEAFO
最新の資源評価年	2013~2014年(結果の合意なし)
次回の資源評価年	未定



SEAFO 条約海域 (網目海域) とマジェランアイナメの主漁場 (D 海域の West、Discovery 及び Meteor)
A~D は Division。緑は既存漁場 (全漁法) (15 か所)。
赤は禁漁海域 (11 か所) (但し、海域 12 は着底トロールのみ禁漁)。
オレンジは開発漁業で既存漁場に変更された漁場 (但し、底はえ縄漁業のみ) (2 か所)。
その他の海域は、新漁場。

SEAFO (D 海域) におけるマジェランアイナメ 国別漁獲量・TAC (トン) の推移 (2002~2024 年) (SEAFO は 2003 年に設立)